臨床検査科支部会報
ピペッツVol. 20

2001年6月15日発行
編集委員　清水のぞみ　宮地なぎさ
　　網島　充英　山上　宣克
編集発行　川崎医療短期大学同窓会（松丘会）
　　臨床検査科支部
　　〒701－0194　倉敷市松島316番地
　　TEL　086－462－1111（内3025）
印　　刷　西日本法規出版㈱

総会・講演会の報告

企画・学術部
見手倉久治

天気が良く暑い日差しが照りつける７月22日に総会・講演会が開催されました。場所は、川崎医療短期大学に新しく完成した地上２階建ての体育館。１階講堂を貸しきり、424名の同窓会員の参加（379名の委任参加を含む）で行われました。

総会は、中務さん（総務部、12期生）の司会のもと、議長の河口さん（６期生）、書記の小銭さん（10期生）で執り行われました。平成11年度および12年度の事業、決算の報告と計画案は出席者の賛同を得て、全て承認されました。また新役員の選出により、これから５年間の執務を担当する役員が決定致しました。最後に、小郷先生（１期生）より短大および附属病院の近況報告がなされ、総会を終了しました。

総会に引き続き行われた講演会では、三戸先生の参加もあって４つの演題に対して、和やかなムードのなか約１時間程度のディスカッションが行われました。

最初の２演題は、「川崎医大中検」、「臨床検査科の現在」と題して附属病院中検の河口さん（６期生）と短大講師の所司先生（９期生）に各現場の現状と将来についてお話していただきました。参加者の中には、昔の実習内容からの変貌に対しての驚きと、懐かしい思い出がよみがえってくる内容でした。

３つめの演題では、卒業して２年目の若い安西さん（23期生）が「臨床検査技師になってみて」と題して、学生時代の自分と就職してからの自分の心の変化を経験した症例を交えながら話してくれました。参加者からは、「これからも初心を忘れずがんばって」と励ましの言葉もあり、先輩と後輩のつながりを感じました。

最後の演題では、４期生の金本さんが「お酒について」として、自らの行ったアルコール負荷試験やお酒作りのサークルでの経験をもとにしたお話をしていただきました。他では聞くことのできないユニークな内容で、参加者は熱心に聞き入っていました。最後に、このあとの懇親会に向けてお酒を飲むときの注意事項がありさしずめ飲食実地試験に向けた講義という内容で終わりました。

最後に、三戸先生から講評していただき無事講演会が終了しました。外が非常に暑かったですが、新しい施設とあって冷房もよく効いていました。今回参加していただけなかった卒業生の皆様は、是非次回の講演会には参加していただきますようお願い致します。また、企画・学術部としましてもより良い企画をして行こうと思いますのでよろしくお願い致します。

懇親会の報告

企画・学術部
見手倉久治

総会、講演会の後場所を懇親会会場の「庄屋・和久」に移し親睦を深めた。参加人数は33名だった。会員数からすれば少人数であったが、ご多忙の中恩師上田　智先生と、講演会から引き続き三戸恵一郎先生にも出席していただきました。上田先生のご挨拶と三戸先生の乾杯の発声とともに始まった会は、終始和やかな雰囲気でした。皆でビンゴゲームを行い、講演会で話のあった金本さん手作りのお酒を含めた景品を分け合った。時間の経つのも忘れて久し振りの再開に話題が各所で絶えませんでした。私自身も上田先生、三戸先生とこれほどゆっくりとお話ができたのは初めてのことでした。学生教育に関してや日常の生活の事など色々な話を聞かせていただきました。

約３時間ほどの会ではありましたが、参加された皆さんは、小さなビンゴの景品と大きな先輩・後輩の絆という土産ものを手にしていただいたように思います。最後に皆で記念撮影を行い、再会を約束して笑顔で解散しました。

主催した側からすればこれ以上の喜びは無く参加者には大変有難く思っております。色々な点で会員の皆様にはご迷惑をおかけしたかとは思いますが、この紙面をおかりしてお詫びを申し上げたいと思います。また同窓会の企画がありましたら是非参加していただきたいと思っています。

同窓会報告書

第５期生
宇野　二郎

臨床検査科を卒業して20年、そしてミレニアムを記念して担任の土井和子先生を囲んで、５期生同窓会を開催しました。日時は2000年４月29日（土）、17時～20時30分、場所は学生時代よく行ったつくしの２階で22名の参加者がありました。

学生時代や現在の苦労話など時がすぎるのも忘れて、語り合い盛り上がりました。次回の同窓会は10年後にしようと言ったら、10年後ではおばさんになるので５年後にしてほしいという意見が多かったです。

地域紹介

ようこそ福山へ

三甲野久美子

福山市は広島県東部、岡山県と県境を接しています。距離的には広島市より岡山市の方が近いくらいです。春は鞆の浦の鯛網、バラ祭り、夏は夏祭りとともに芦田川の花火大会など、各行事とともに美術館や博物館などの文化施設が充実され、日本鋼管（NKK）の福山進出とともに発展してきた町です。福山市市民病院は福山市の東部、蔵王町に、自治体病院として、昭和52年（1977年）７月に開所して20数年になります。山陽自動車道、福山東インター入口近くに位置し、南西の福山の市街地を見下ろしています。

開所当時、診療科は内科、外科など11科でスタートしました。現在は心臓血管外科、循環器科、泌尿器科などが増え、ベッド数300で地域の医療に貢献しています。1998年には、福山市が中核市に移行し、福山市市民病院も80床の増床が決まり、循環器科の拡充を中心として新たなスタートを切ろうとしているところです。

さて当病院検査室は臨床検査技師15名、その他１名、計16名。検査室は生理検査室と臨床検査室とにわかれています。生理部門は内視鏡検査室も含まれ、医師、看護婦、放射線技師と連携して、検査を進めています。その他の部門は血液、病理、一般部門と、生化学、血清・輸血、細菌部門に別れています。将来的にはその他の部門、全てでローテーションを組み、生理部門は循環器科のフロアに移る可能性が高いので、流動的にはなっていますが、２～３年のうちには検査室も、検査の内容も一新されることでしょう。

私達臨床検査技師はコメディカルとして、スペシャリストとして専門分野の技術と知識を習得し、仕事に活かしていくことはとても大切なことです。しかし、病院も世の中の変動とともに変わってきています。検査室も診療部門の１部門として病院と同様に変わってきています。変わろうと努力しているところです。これからの検査のために検査技師のために！！

ここ福山は温暖で住みやすく暮らしやすい町です。是非一度はお越しください。皆さんとともに会えることを楽しみにしています。　　（H11年２月記）

お詫び

平成５年および６年発行の同窓会名簿について、第15期卒業生（平成２年卒業）光成（武田）知子さんの住所等が本同窓会とは全く関係のない矢間知子さんのものと間違っておりました。ご迷惑をおかけいたしました関係各位にこの紙面を借りましてお詫び申し上げます。

（松丘会・渉外調査局）

同窓生近況報告

「一人ぼっちは淋しいな」

14期生　野田以登子（旧姓　村上）

こんにちは、14期生の野田以登子です。（旧姓　村上）

皆さん、お元気でお過ごしでしょうか？私はといいますと、８年８月８日に結婚し、９年５月９日に第一子（女）を授かり、ただ今第二子妊娠中といった感じです。

仕事の方は、検査技師をしてはや10年目に突入し、検診会社、大学の研究室、一般病院、そして現在在職している老人病院と検査技師としてでも色々な職場を経験させていただきました。

現在の職場は、病床数152床・職員数120名の老人病院で患者さんの平均年齢は85歳を越えます。勤務したての頃は、どのおじいちゃんもおばあちゃんも皆同じ顔に見えて、名前を間違えないようにとそればかりでした。田舎にあるので、名字も同じ人が多く、同姓同名も今も何人かおられます。仕事内容は、広く浅く何でもといった感じです。なんせ一人ぼっちなんですから。

検尿、検血、生化学、生理、真菌検査等をしていますが、わからないことだらけで本を開いては悩み、Dr. に聞いては悩みのくり返しです。川短時代のノートが結構役に立ったりしています。余談ですが、就職活動をしていたときに、ある総合病院の技師長さんが、「川崎出身は即使えるけど、後がなあ。」とポツリと言われたことがあります。その時はショックでしたが、今思うと即使えるのはこのノートがあっての事だなあ。あの時は書いている内容の半分もわかって書いてたのかなあ。なんて変に納得したりしています。そして、「後がなあ。」の“後”は自分の努力次第でなんとかなるんだから、前向きな姿勢だけはいつまでも持っていようと心に決めています。

題名に「一人ぼっちは淋しいな」なんて書きましたが、結構気楽だし、看護婦さん、介護福祉士さん、薬剤師さんなど大きな病院ではあまりお話する機会のない方とも接する事が多いので、色々な面でメリットがあります。患者さんの容態や、薬から考えられる検査値の異常、検査後の処置へのもっていきかたなど学ぶことも多く、反対に教えなくてはならない場合も多いです。と楽しくやっています。

この原稿依頼を手にしたときは、“どうしよう”だけでしたが、原稿を書き出して今の自分を見つめることが出来て良かったです。同窓生の皆さん、一人ぼっちの私から HELP 信号が送られてきたらどうか優しい愛の手をさしのべてやってください。

（H10年７月　記）

20期生　甲田　　愛

梅雨の大雨の中を、久しぶりに倉敷へ遊びに来てみると、「ちょうど良かった♡」と手渡された封筒……。こんなに早く自分の番が来るとは思ってもいなかったのですが……。

皆様、いかがお過ごしですか？

早いもので就職して４年目に突入しました。私はといえば、４年間、生化学検査ひとすじに、夏はダイビング、冬はスキーといった感じで相変わらずのマイペースな日々をおくっています。

しかし、８月より病院にオーダリングシステムが導入される為、検査室はルーチンよりもその準備で大忙しとなりました。検査室内のシステムは、一足先に新しく変わったのですが、初めの頃は「結果リストが上がってこない！」「このエラーは一体何？」「機械が測定してくれない！」など、自分達で対応できない問題が次々起きて大変でした。（今では大分落ち着きましたけど。）

つい先日も、外来全体でのリハーサルが行われたのですが、バーコードを貼った検体だけが提出されて来ることに、どうしても不安を感じてしまいました。

同じシステムが導入されている広島総合病院の技師さんの「最初はもうパニックだったけどねー、慣れたら楽になったよ」という言葉を頼りに、「大変なのは今だけ」と自分に言いきかせて頑張っています。

このPIPETTSが発刊される頃には、オーダリングも始まっている事でしょう。検査室はどんな状況になっているのやら……乞うご期待！？

といったところで、20期生の皆さん、また同窓会か何かで会える日を楽しみにしています。

お元気で。

（H10年７月　記）

21期生　椛田美由紀

暑いー。京都の夏はひたすら暑い。何をしていようとまとわりつくジメッとした暑さ。実家が九州の私には、こんな暑さは経験した事なく、（岡山もわりとすごしやすい所でしたし）無性に腹が立ったのを覚えています。大人気ないんですけど。あれから２年たって３度目の夏です。私が勤め初めた年は、大阪でO－157の騒ぎがあり、京都もその余波をあおり、大変忙しかったのを覚えています。不運にも私は細菌検査室勤務という事もあり、８時、９時に帰宅するのもしばしばでした。そんな夏がまた来るんですねぇ。と京都は最悪。と言っているみたいなのですが、夏の京都もいいもので、祇園祭あり、大文字ありと、風流にことかく事はありません。特に

大文字の送り火は見るに値するもので、炎で書かれた「大」の字や「船」、「鳥居」の形が闇に浮かび上がり、幻想的で美しく、荘厳でもあります。あのかがり火を見た時、京都に来て良かったと、日本人で良かったと感じいったりもします。暑いんですけどー。
暑い暑いと言っていますが、京都の冬はこれまた寒い。しみいるように寒い。たまに雪やなんかも降ってくる。が、京都の情緒のためかそれもまた絵になる。ただ今、スキーに熱中している私は、そんな冬も待ちどおしくなる。桜の季節は言うにおよばず。紅葉の艶やかさも捨てがたい。本当にここは、見せるための街ー魅せる街だと感じます。

ここ京都はたしかに都会なのですが少し分に入ると山があり、渓谷が流れる自然がある。街中でも突然、神社があり、お寺がある。新しい物と古い物が入り混じる不思議な場所です。

京都に住むと帰りたくなくなると言いますが、今はまだ実家に帰りたいと思わない私は、それを実感しているのかもしれません。

住めば都なんでしょうかねぇ。

（H10年７月　記）

22期生　大野多雨子

検査技師として働くようになって２年目。昨年１年間の早さは学生時代のあっという間とは比べものにならない程、本当にあっという間でした。短大を卒業して、今は地元である北海道の田舎で検査技師が７人の病院にいます。担当は生理機能で、心電図、肺機能、脳波、超音波の検査を掛け持ちしています。１つの検査でさえこなせるか心配なのに、こんなに一杯できるのだろうかと思いつつ今日までできました。今でも先輩の技師の方たちに迷惑をかけたり、ドクターに怒られたりしながら、なんとか毎日こなしていくというかんじです。こんなに田舎の街ですから、患者さんの大多数はお年寄りです。お年寄りは検査に対して、何をされるのだろうと不安になったり、機械を取り付けることに抵抗があったり、深呼吸や息を止めるという事が難しい等気を付けることが沢山あります。そんな中、こんな事がありました。

明治生まれの90歳を過ぎたおばあちゃんが心電図をとりにきました。杖をつき、よろよろと歩いて、ベッドに上がるのもやっとというかんじでした。心電図をとり終わり、起き上がるのを助けようとおばあちゃんの体を支えようとした時「人にしてもらうと自分で出来なくなる。やめてくれ。」と言い、私の手を振り払いました。ビックリしました。今まで当たり前のようにしてきた事です。正直、少しショックでした。ゆっくり起き上がり、杖をつきながら検査室を出て行くおばあちゃんの姿を見て、カッコイイなぁと思ってしまいました。自分が年をとった時、同じ事を言えるだろうかと考えてしまいました。通り一遍の気遣いでは駄目だという事をそのおばあちゃんに教えられました。まだまだ青いなぁと反省しつつ、検査のことはもちろん、患者さんと接するにあたって、学生時代には見えなかった事、慣れていくことで忘れてしまった事などいろいろな事を吸収していきたいと思っています。

（H10年７月　記）

23期生　村　川　寛　子

短大を卒業して、いいかげん学生気分もなくなり時期遅れ、というよりもずーっっと数ヶ月にも渡って持ち続けている五月病がいまだ鎮まりません……。大阪に就職し、なおかつ病院や検査センターではなく、企業に就職ということもあり、なかなか肉体的にも精神的にも落ちつくことができないでいます。……会社行きたくねーっっと毎朝自分自身との闘い。通勤に40分かかるというのもこたえています。短大では寮にいましたし、実家の方では近くの学校に通学していたのであまり時間をかけて、また電車を使うことがなかったんですね。これが。今は毎日人に押しつぶされつつ、途中２回の乗りかえをし会社に到着するころには汗びっしょり……。チカンに遭遇していないだけましですけど。しかし新人ということで朝８時くらいに到着するように７時過ぎには家を出なければならず……つらいです。帰りも帰りで会社を出るのがだいたい早くて６時。遅い時は９時。家についたら10時前……。食事を作る気力もなく弁当を買ってきて終るといったこともしばしば……。こんなことをしているから体調を崩すんでしょうね……。

体調といえば、みごとに崩しております。４月末にカゼを引き、５月には顎関節症。６月には再びカゼ。医療費のかかること、かかること。この中で一番大変だったのは顎関節症。初日は口が２㎝以上開かなくなり、痛い、痛いと思っていたらどんどんはれてきて会社近くの病院に行き、全治半年、とまずおどされました。その後３日後に通院したところ、親知らず併発が判明……。とりあえず抗生物質と鎮痛剤でおさえたものの発熱。初の欠勤……。３ヶ月以内（就職して）だったため給料引かれて厳しい生活状況。……とりあえずは１週間後に抜歯し、その後顎関節症も自然に復ったのでよかったですけど。一時は半年流動食を覚悟して、カロリーメイトのドリンクタイプとプリン、という食事を続けていました。……顎がズレやすい人は気をつけた方がいいですよ。かなり大変です。何もかめない、という状態ですからねー。

今はなんとか風邪気味で生活できてますけど、もう会社の人には病弱な奴というレッテルをはられてしまいました。（顎関節症に関しては不運だっただけだと思うのですが、今だに原因がわからず、再発が怖いです……。）早いとこ生活を安定させて健康を保とうというのが、今さしあたっての目標です。（何か情けないですけど。）夏も近づき食も細くなりがちの今日この頃……頑張って食べるようにしてますけどどうなることやら……。皆さんも健康に気を付けて頑張って下さい。（特に同期の人達。）

明日の朝も会社に行きたくねーっっとか言いながら会社に行っているのでしょうね……（あ゛あ゛五月病がまだ続いている。）

（H10年７月　記）

訃報　～謹んで哀悼の意を捧げます～

第５期生の大国彰裕さんが2000年10月11日19時に永眠されました。
ご冥福をお祈りします。